【授業科目】治療学Ⅱ（消化・代謝・防御）Therapeutics Ⅱ（Digestive system, Metabolism, Defense system）

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
病院医師	２年次 前期	必修	２	３０	講義			可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／機能障害による生活の影響、人生観・価値観・生活習慣などを含めた個人の生き方への影響を考えるために必要な基礎知識として、呼吸・循環・消化・代謝・防御機能に関連する代表的な疾病の成り立ち、病態生理、治療、回復過程、がん治療の現状や救急体制について解説する。 講義形式で、教科書を使用しながら適宜プリントを配布して行う。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／授業に関する課題は授業時間内に対応する。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①呼吸機能、循環機能が障害される疾患の病態生理、検査、予後、治療の実際について説明できる。 ②消化吸収機能、代謝内分泌機能が障害される疾病の病態生理、検査、予後、治療の実際について説明できる。 ③排泄機能、血液造血機能が障害される疾患の病態生理、検査、予後、治療の実際について説明できる ④がんの病態と治療について緩和医療を含めての現状について述べることができる。 ⑤救急医療体制と救急蘇生法、救急時の基本的援助について述べることができる。 ⑥呼吸・循環・消化・代謝・防御機能の障害による生活への影響を考え、看護の学習につなげることができる。
時間外学習に必要な内容・時間	第 1～15 回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく。また、1 年次に学習した「人体のしくみと働き」「内部環境の調節」から該当する範囲を予習する。（各６０分）体のしくみと機能を理解していると、それらがどのような異常を起こし、どのようにして疾病が成り立つかを系統的に理解することができる。 第 1～15 回事後学習：講義内容について教科書や資料を参考に復習する（各６０分）。講義内容を理解し関連を自分で整理すると、疾患への理解が深まり、専門科目の看護学へのつながりを理解することができる。視覚的に理解を深めることも重要であるので、図書館のＤＶＤ等も活用するとよい。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画		担当予定	使用する教科書
	第1～3回：消化器系外科疾患の病態と治療	蜂須賀	成人看護学５消化器（医学書院）
	第4～5回：泌尿器系疾患の病態と治療	橋本	成人看護学８腎・泌尿器（〃）
	第6～8回：代謝内分泌系疾患の病態と治療	中嶋	成人看護学６内分泌・代謝（〃）
	第9～11回：血液・造血器系疾患の病態と治療	澤木 宮下 前山	成人看護学４血液・造血器（〃）
	第12～13回：腎臓系疾患の病態と治療	坪井	成人看護学８腎・泌尿器（〃）
	第14～15回：救急医療体制と救急蘇生法	柴山	成人看護学（別巻）救急看護（〃）
	※状況により順番、教員、内容等が変更になる場合があります。 （掲示案内）		

評価方法 評価基準	試験（90%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。		
教科書	授業計画に記載	参考書等	講義の中で適宜紹介する。
学生への助言等	特定の病因論に対応する形で治療体系も発達しています。疾患に対する治療の知識は、健康障害に対する対象者の反応を探索していく上で重要な知識です。疾患の病態と関連づけながら学んでください。 講義中の飲食・携帯電話の使用・教室の出入りは禁止とする。また、講義中は私語をつつしむこと。		